

保護者の皆様

川崎市立高津中学校
校長 河野 勝彦

平成28年度全国学力・学習状況調査結果の概要等について

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと拝察いたします。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、4月19日(火)に3年生を対象に実施した標記調査の本校の調査結果の概要と、今年度に向けた取組目標の達成状況、及び次年度に向けた取組目標等について報告いたします。今回の調査の結果等を踏まえ、今後も生徒の皆さん一人一人の学習状況の改善、主体的な学習態度や豊かな心の育成等に努めてまいります。

なお、調査の実施要領には「本調査によって測定できるのは学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面である」と示されていることから、本資料は「本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標」としてお考えいただきたいと存じます。

調査結果の概要

1 教科の調査

①国語の「話すこと、聞くこと」

「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域、数学の「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域の平均正答率が、全国に比べてすべて上回っていることから、今年度も本校の結果は、全体的に良好な状況にあります。

②その一方で、全国に比べて上回

ってはいるものの、国語と数学のいずれにも「知識」に関する問題に比べて「活用」に関する問題の正答率が低く、無解答率が高いという傾向があります。今年度も「基礎的・基本的な知識及び技能を活用する力」に課題があります。

2 教科に関する意識調査

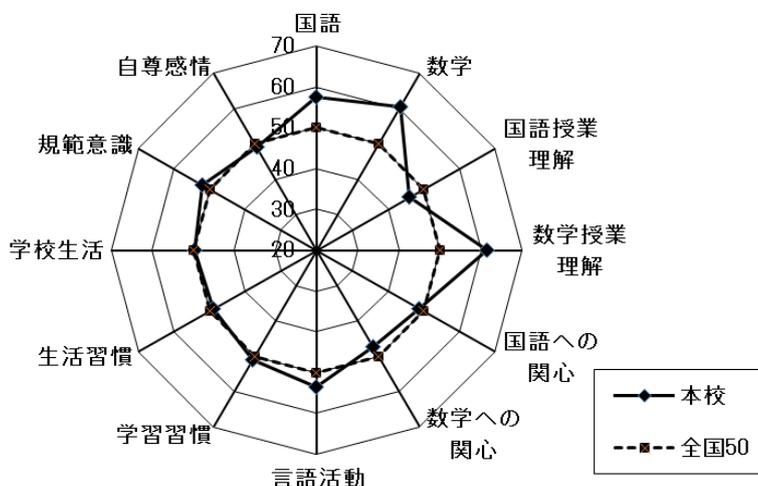
①国語については、全国に比べて授業の理解度と関心等の両方が低いという課題があります。

②数学については、全国に比べて授業の理解度はかなり高いものの、関心等が低いという課題があります。

3 学習・生活習慣や意識等に関する調査

①言語活動については、全国に比べて概ね良好な状況にあります。

*全国結果を50とし、それに対する本校の結果を表しています。



- ②学習習慣については、全国とほぼ同程度の状況にあります。「家で予習・復習をしている」については肯定的な回答の割合が低く、課題があります。
- ③生活習慣については、全国とほぼ同程度の状況にあります。就寝時刻については、「午前0時以降に寝る」と回答した割合が高く、課題があります。
- ④「学校に行くのは楽しい」と回答した割合は、全国とほぼ同程度の状況にあります。
- ⑤規範意識については、全国とほぼ同程度で、良好な状況にあります。
- ⑥自尊感情については、全国とほぼ同程度の状況にあります。「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」等については、肯定的な回答の割合が7割程度にとどまり、課題があります。

調査結果の内容

国語

◇良好な状況と考えられるもの
 ◆課題があると考えられるもの
 A問題：主として「知識」に関する問題
 B問題：主として「活用」に関する問題

1 今年度に向けた取組目標の達成状況

- 「4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回る状況」「国語の授業の理解度や関心等が高い状況」をめざしました。
 - ▶28年度も4領域の平均正答率が、全国に比べてすべて上回りました。その一方で、授業の理解度と関心等については、肯定的な回答の割合が全国平均を下回り、目標を達成することができませんでした。
- B問題の記述式問題の平均正答率が50% (27年度は49.5%)を上回ることをめざしました。
 - ▶28年度のB問題の記述式問題3問の平均正答率は71.0%と、50%を大きく上回ることができました。

2 領域ごとの概要

【話すこと、聞くこと】

◇A問題の6問の平均正答率が88.8%と高い状況にあること、また、そのうちの4問の正答率が90%を超えていることから、「話すこと、聞くこと」の領域の基礎的な知識は、概ね身に付いていると考えています。

【書くこと】

◇A問題の4問の平均正答率が81.5%と高い状況にあることから、「書くこと」の領域の基礎的な知識は、概ね身に付いていると考えています。

◆B問題の間2三「宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く」の正答率が61.6%とやや低く、課題があります。自ら課題を決め、解決するための方法を考える活動等を取り入れながら改善を図ります。

【読むこと】

◇A問題の間3一『ライスカレーの名に値する』の意味として適切なものを選択する、二『私』にとってのライスカレーを説明したものとして適切なものを選択するについては、正答率がそれぞれ93.2%、96.6%と高く、良好な状況にあると考えています。

◆A問題の間8二「資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択する」の正答率が67.8%とやや低く、課題があります。本の奥付などの特徴や役割を理解し、目的に応じて活用する活動等を取り入れながら改善を図ります。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◇A問題の問9二「文脈に即して漢字を正しく読む」のうち、「フウトウ(封筒)」「ムク(報)われる」の正答率がそれぞれ100%、95.2%であること、問9三「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」のうち、「もちろん」「お届けします」の正答率がそれぞれ98.6%、96.6%であることなどは、良好な状況と考えています。

◆A問題の問9一「文脈に即して漢字を正しく書く」のうち、「独創(ドクソウ)的」の正答率が34.2%と低く、課題があります。漢字の字形や画数、読みや意味などの基本的な事項を確実に指導しながら改善を図ります。

◆A問題の問9六「題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したのものとして適切なものを選択する」の正答率が53.4%とやや低く、課題があります。毛筆の授業の際には、字形や文字の大きさ、配列などの観点を具体的に示して指導しながら改善を図ります。

3 国語に関する意識 () は全国の平均回答率

◆「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、「国語の授業がよく分かる」と回答した割合は70.2%(74.1%)と、全国に比べて低い状況にあります。

◆「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、「国語の勉強が好き」については61.0%(59.8%)と全国とほぼ同程度の状況にありますが、「国語の勉強は大切」は82.2%(89.1%)、「国語の授業で学習したことは、将来役に立つ」は74.7%(84.6%)と、いずれも全国に比べてかなり低い状況にあります。

4 次年度に向けた取組目標

次年度も「4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回る状況」をめざします。特に、B問題の記述式問題については、条件作文を書く指導等を授業に取り入れながら、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書く力の育成を図り、全国に比べて正答率の平均が10ポイント以上上回ることをめざします。

また、生徒にとってわかりやすい授業となるよう、指導方法や内容の工夫・改善に努め、次年度は国語に関する理解度と関心等の数値が全国と同程度になることをめざします。

数 学

1 今年度に向けた取組目標の達成状況

○「4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回る状況」「数学の授業の理解度や関心等が高い状況」をめざしました。

▶28年度も4領域の平均正答率が、全国に比べてすべて上回りました。また、授業の理解度については肯定的な回答の割合が全国平均に比べて大幅に上回ったものの、関心等については全国平均を下回り、目標を達成することができませんでした。

○問題解決の方法を図形の性質を用いて説明する問題の正答率と無解答率を、27年度に比べていずれも5ポイント程度向上させることをめざしました。

▶28年度は「図形の性質を用いて説明する問題」は出題されませんでした。B問題の記述式問題のうち「説明する問題」6問については、正答率の平均が46.1%(27年度は46.1%)、無解答率の平均が11.6%(27年度は12.9%)と27年度と、ほぼ同程度の結果となり、5ポイント程度の向上を図ることができませんでした。

2 領域ごとの概要

【数と式】

- ◇A問題の問1(3)「正の数と負の数の加法計算」、問3(4)「2つの等式で結ばれている方程式から連立方程式を完成させる」、B問題の問1(1)「1試合の時間を16分とするとき、1回の休憩時間を求める」については、正答率がそれぞれ93.8%、94/5%、87.0%と高く、良好な状況にあると考えています。
- ◆B問題の問1(2)「葉月さんの提案を取り入れたとき、1試合の時間を求める方程式をつくる」の正答率が47.8%と低く、無解答率が10.3%と高いことから課題があります。必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現する活動等を取り入れながら改善を図ります。
- ◆B問題の問6(2)「文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する」の正答率が27.4%と低く、無解答率が26.0%と高いことから、与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することに課題があります。

【図形】

- ◇A問題の問5(2)「四角形をその面に垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を書く」、(3)「立方体の見取り図を読み取り、2つの角の大きさの関係について、正しい記述を選ぶ」については、正答率がそれぞれ87.0%、86.3%と高く、良好な状況にあると考えています。
- ◆A問題の問4(1)「与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ」の正答率が30.1%と低く、課題があります。作図した図形の特徴を作図の方法に基づいてとらえる活動等を取り入れながら改善を図ります。
- ◆B問題の問4(1)「2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する」の正答率が41.1%と低く、無解答率が11.6%と高いことから課題があります。事柄が成り立つ理由を、筋道を立てながら考えて証明する活動等を取り入れながら改善を図ります。

【関数】

- ◇A問題の問9(1)「比例の表を完成させる」、問10(1)「一次関数の表からグラフを選ぶ」、B問題の問2(1)「一次関数の表から $x=4$ のときの y の値を求める」については、正答率がそれぞれ95.2%、80.1%、80.8%と高く、良好な状況にあると考えています。
- ◆B問題の問2(2)「 x と y の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する」の正答率が28.8%と低いことから、加えるべき条件を判断し、それが適切である理由を説明することに課題があります。

【資料の活用】

- ◇A問題の問13(2)「1～13までの13枚のカードから、5または11のカードをひく確率を求める」の正答率が87.7%と高く、良好な状況にあると考えています。
- ◆B問題の問5(2)「25.5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く」の正答率が28.8%と低く、無解答率が32.2%と高いことから課題があります。目的に応じて資料を整理して傾向を読み取り、解決の構想を立てる活動等を取り入れながら改善を図ります。

3 数学に関する意識 ()は全国の平均回答率

- ◇「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、「数学の授業がよく分かる」と回答した割合は80.8%(69.4%)と、全国に比べてかなり良好な状況にあります。
- ◆「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、「数学の勉強が好き」については63.0%

(56.0%)と全国に比べてやや高い状況にあります、「数学の勉強は大切」は68.5%(80.5%)、「数学の授業で学習したことは、将来役に立つ」は58.6%(71.5%)と、いずれも全国に比べてかなり低い状況にあります。

4 次年度に向けた取組目標

次年度も「4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回る状況」をめざします。特に、B問題の記述式問題のうち「説明する問題」については、問題解決の方法や手順を数学的な表現を用いて説明する指導を取り入れながら改善を図り、全国に比べて正答率の平均が10ポイント以上上回り、無解答率の平均が5ポイント以上下回ることをめざします。

また、身近な題材を取り入れながら数学の有用性を実感させる取組等を通して、次年度は数学に関する関心等の数値が全国と同程度になることをめざします。

学習・生活習慣や意識等に関する調査

1 今年度に向けた取組目標の達成状況

○「自分のよさを認識できる生徒」「将来の夢や目標をもつ生徒」の割合が、27年度より5ポイント程度向上することをめざしました。

➡28年度は「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合は、それぞれ68.4%(27年度は69.7%)、73.3%(27年度は71.8%)となり、5ポイント程度の向上を図ることができませんでした。

2 領域ごとの概要

*数値には「どちらからといえば」と回答した割合を含みます。

* () は全国の平均回答率

【言語活動】

◇「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した割合は93.1%(93.0%)と高く、良好な状況にあると考えています。

◆「友だちの前で自分の考えや意見を発表することができる」「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができる」「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことができる」と回答した割合は、それぞれ57.5%(50.2%)、42.5%(37.0%)、52.0%(37.0%)と低く、自分の考えや意見をまとめたり相手に伝えたりすることに課題があります。授業や学級活動等における話し合い活動や自分の考えを文章にまとめる活動等の充実を図りながら改善に努めます。

【学習習慣】

◇家で「学校の宿題をしている」と回答した割合は90.4%(90.1%)と高く、良好な状況にあると考えています。

◆家で「予習をしている」「復習をしている」と回答した割合は、それぞれ41.1%(34.2%)、37.0%(51.0%)と低く、宿題以外の家庭学習への取組に課題があります。家庭学習の意義や重要性について、授業や学級活動等で継続的に指導しながら改善に努めます。

【生活習慣】

◇「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に起きる」と回答した割合は、それぞれ92.4%(93.3%)、90.4%(92.3%)と高く、朝食と起床時刻については、良好な状況にあると考えています。

- ◆「毎日同じくらいの時刻に寝る」と回答した割合が 74.6% (75.2%) と低く、「普段(月～金曜日)午前 0 時以降に寝る」と回答した割合が 34.2% (21.5%)、「午後 11 時以降に寝る」までを含めると 74.6% (63.1%) と高いことから、就寝時刻に課題があります。

【学校生活】

- ◇「学校に行くのは楽しい」と回答した割合は 81.1% (81.4%) と、全国とほぼ同程度であり、概ね良好な状況にあると考えています。

【規範意識】

- ◇「学校の規則を守っている」「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんなことがあってもしてはいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した割合は、それぞれ 97.9% (94.7%)、90.4% (83.8%)、94.5% (93.6%)、92.4% (92.8%) と、いずれも 9 割を超えていることから、良好な状況にあると考えています。

【自尊感情】

- ◇「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した割合は、91.4% (94.3%) と、全国と比べてやや低いものの 9 割を超えていることから、良好な状況にあると考えています。
- ◆「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」については、肯定的な回答の割合がそれぞれ 68.4% (69.3%)、73.3% (71.1%)、70.6% (69.6%) と、7 割程度にとどまっているという課題があります。

【地域との関わり】

- ◆「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と回答した割合は、それぞれ 43.2% (45.2%)、34.2% (48.7%) と低く、生徒の地域行事やボランティア活動への参加状況に課題があります。キャリア在り方生き方教育の計画的な推進、ふれあいフェスティバルや防災訓練等での地域の人々とのかかわりを通して、地域に対する興味や関心、理解を深めさせたいと考えています。

3 次年度に向けた取組目標

キャリア在り方生き方教育の計画的な推進、道徳教育や人権尊重教育、学校行事、体験活動等の一層の充実を図ることにより、「自分のよさを認識できる生徒」「将来の夢や目標をもつ生徒」「失敗を恐れずに挑戦する生徒」の割合が、いずれも今年度より 5 ポイント程度向上することをめざします。

教育委員会から

高津中学校では、「特色ある学校づくり」を中期目標の一つとして掲げ、さまざまな視点から、教育活動を充実させる取組を行っています。生徒会が中心となって推進しているあいさつや時間前行動等の取組が、全校生徒に浸透している姿を、訪問時に拝見することができました。こういった取組が、日々の授業の充実や、生徒の自己肯定感の高まりに繋がっていることがうかがえます。

高津区・教育担当